

学部・学科を知り、教育を知る

学科 FOCUS



第8回 文学部外国語学科フランス語専攻

世界にはフランス語の文化圏がたくさんあり、国連でも公用語の一つとしてフランス語が使われています。多言語の修得は未知の世界への入り口。言語を学び、異文化を知ることの大切さを、和田光昌教授に語っていただきました。



文学部外国語学科
フランス語専攻

フランス語とフランス文化を学び、「他者の発見」を通して自分自身の成長につなげられる精神を養います。

例えばフランスはバカンスの国といわれるほど休暇の多い国ですが、そうした制度はなぜできたのか。歴史的、政治的な背景や、フランス人の労働観、カトリックの国ならではの労働の捉え方の違いなどもあります。事象の背景まで目を凝らすことで、フランスという国の知

フランスといえば「芸術」「美食」「世界遺産」などの華やかなイメージがありますよね。文学部外国語学科フランス語専攻では、語学と文学以外にも、こうした皆さんの興味に沿った科目をたくさん揃えています。そして、これらの芸術や文化がどのような背景から生まれているのか。歴史、政治、経済を含め、フランスの深いひだの奥まで見つめていく。語学を通して、いわば「フランス研究」ともいえるのがフランス語専攻の特長です。

語学とおして
多面的に学ぶことで
異文化を知る

らなかった一面、発見や驚きを提供したいというのがねらいの一つです。

またフランス語という新しい言語を一から始めるという点においても、授業では学生たちに「驚き」を与える演出を大切にしています。フランス語は難しいというイメージが強いと思いますが、実は単語の数は英語よりずっと少なく、やり方さえ覚えれば発音も習得しやすいのです。授業も、

ネイティブの先生による授業が1年の4月から受けられたり、フランスで実際に使われている教科書を用いたり工夫しています。最終的には一人でフランス旅行ができたり、現地でコミュニケーションがとれるレベルになるようプログラムを組んでいます。

新たな視点をもたらず、多言語主義

かつて「フランスではフランス語しか通じない」といわれた時

代がありました。現代ではフランス人でも英語を話す人はたくさんいますし、国際社会の中で絶対に必要な言語とは言えないかもしれませんが、国連では公用語の一つがフランス語ですし、オリンピックのアンナウンスにもフランス語は使われています。またフランス語圏はアフリカ諸国をはじめカナダ、ベトナムなど地球上にたくさんあり、フランス語から見えてくる世界はとても多様です。

多言語主義、複数言語主義ともいいますが、決して「外国語≠英語」ではないということ、学生たちには伝えたいですね。言語は複数修得すること、それ自体に意味があります。国際語として英語、プラスアル

ファで別の言語を習得することで世界が広がる。それは今までの常識を相対化することにつながります。英語圏でいわれていることが世界の全てではなく、第3の視点を持つ。それは日本人がこれからの国際社会を生きていく上でとても重要だと思います。

充実した制度が挑戦心・探究心を養う

フランス語専攻のキャッチコピーは「他者の発見」です。文化や国民性など、自分たちとは異なるものの存在を理解することは、自分のなかの別の自分の発見にもつながります。フランス語専攻のカリキュラムで

は、そうした学びをサポートするための体制が整っています。「KIKAKU」フランス「研修旅行」制度では、どちらも自分が興味を持った分野について研究を深めたり、現地に行つて調べたりすることが出来ます。

また、フランスの食文化やモード、文化遺産などを研究する科目は他の大学にはあまりないのですが、これは学生たちの希望から設置された科目です。学生の興味や関心を歴史的・文化的背景と結びつけ学習化していくことが私たちの役目です。ネイティブの先生が多いのも大きな特長です。9人中3人という割合は他の大学からも驚かれるほどです。

こうした環境の中、私たちが願っているのは、自分の常識を疑える大人になってほしいということ。そして他者に対して寛容であること。就職してフランス語が直接的に役に立つ機会はそう多くはないでしょう。けれど、フランス語専攻で培ったエスプリ(精神)があれば、人生のい

ろいろな局面を乗り越えていけると思っています。自分のなかの他者を発見しながら、常にステツプアップしていける。そんな人材は、社会の中でもきつと輝いているはずですよ。



ロランス・シュヴァリエ教授の「フランス語コミュニケーション集中演習II」。全員でリスニングの練習をした後は、グループに分かれてのロールプレーやテーブルトークでオーラル(聞く・話す)能力を高めます。授業は全てフランス語で行われます。



フランス語から見える世界の奥深さを語ってくださった和田光昌教授と、同席された真下弘子教授。あふれるほどの「フランス愛」が伝わるインタビューでした。

説明してくれた先生



文学部外国語学科フランス語専攻
和田 光昌 教授

早稲田大学大学院文学研究科博士後期課程フランス文学専攻単位取得。専門は19世紀フランス文学(散文とくにフロベール)、草稿研究。趣味はオペラ鑑賞。「特にオフエンバックですね。生の舞台の感動は体にも良いんです(笑)」。